

## 国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（平成30年度第3回）

1. 日 時 平成31年1月17日（木）13:03～15:02
2. 場 所 戸畑キャンパス 百周年中村記念館 特別会議室
3. 出席者 池上委員，小笠原委員，工藤委員，久保田委員，坂井委員，高原委員，辻委員，松岡委員（五十音順）  
学長，理事（教育・財務担当），理事（研究・産学連携担当），  
理事（国際・評価担当），理事（総務・労務担当），  
工学研究院長，情報工学研究院長，生命体工学研究科長
4. 列席者 近藤監事，副学長（学生・附属図書館担当），副学長（情報担当），  
副学長（男女共同参画・社会連携担当），  
教養教育院長

### 5. 新年の挨拶

学長から，会議に先立ち新年の挨拶として，昨年を取組と今年の抱負について，次のとおり話があった。

- ・ 取り組みの姿勢として，国際社会で活躍し続ける人材の育成と国際競争力のある研究活動の推進していきたい。その中で，個人の力を，組織の力にするべく，様々な事に取り組んでいきたい。2018年の主な取組について報告するとともに，2019年に取り組みたいことは以下のとおりである。

#### 【2018年の主な取組】

- ・ 昨年取組として，外部との対話を通じながら，本学をより強くしていきたいと思い，学長記者懇談会等を行ってきた。
- ・ 自治体との連携も行っており，その中で，平成30年10月に内閣府の地方大学・地域産業創生事業に採択された北九州市・安川電機・FAISと連携した「革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命実現プロジェクト」の取組について，目標が達成できるように推進していきたい。
- ・ 研究については，学術論文の質が向上し“FWCI”は最近1を超えて，国際競争力のある論文が出てきている。
- ・ 教育の国際化として，海外大学の教員指導を受けることができる国際共同研究指導制度も始めており，活用されてきている。
- ・ 平成29年度の海外派遣学生は615名だったが，今年も600名を超える見込みである。2か月を超える長期海外派遣も増えてきており，今年度は20名程度である。
- ・ 学生プロジェクトにおいては，Hibikino-Musashi@Homeが家庭用ロボットの世界大会で3度目の優勝を果たした。
- ・ 労働環境整備としては，安心して働くことのできるように，人事制度も改革中である。
- ・ 男女共同参画活動として，7名が在宅勤務制度の利用中であり，女性教員とのラ

ンチミーティングの実施や、女性限定公募も実施している。

- ・ 人事関係については、事務職員・技術職員の改革を進めているが、教育職員についても、教育職員対象のアンケート調査を実施した。今後は、調査結果を基に改善していく予定である。

#### 【2019年の取組例】

- ・ 110周年を契機に、「九工大の研究力」をテーマにした記念フォーラムを東京で開催予定であり、OBを含めた産業界へ「本学の現状、シーズ」などを示し、今後の連携を目指していきたい。
- ・ 学生プロジェクトについては、当初は、明専会様のご協力、その後安川電機様のご支援をいただき活動中であり、さらに2018年は千鳥屋本家様、2019年度からは、Q Tnet様、佐電工様からご支援いただけるようになり、少しずつ産業界の方々が、学生の取組に関心を持っていただけるようになってきた。
- ・ 産学官連携による「未来を思考するキャンパス」として、Q Tnet様と生協様とアイディアボックス（無人店舗）の実証実験予定である。
- ・ 共同研究講座も平成31年度には、計10件の設置予定である。
- ・ 産業界の声を教育現場に反映させるべく、産学連携教育審議会の継続や、新日鐵住金ソリューションズ様と対話を実施予定である。
- ・ 今年度の採用上位20社のうち9社に副学長が訪問し、新日鐵住金様からも貴重なご意見をいただいた。
- ・ AO入試については、学部入試としては大阪にて初の学外での試験を実施予定である。
- ・ 平成31年度から、BYODの全学実施予定である。
- ・ 2019年は、創立110周年を迎えることを機会に、学内が結束し、皆様のご協力をいただき、より良い大学にしていきたい。

なお、委員から次の意見があった。

（○：学外委員，△：学内委員）

○： 教育職員アンケートの項目は、こういった内容か。

△： 執行部との間で情報共有ができているか、学生とのコミュニケーションがうまくできているか、部局間など組織を超えたところで、コミュニケーションができているか等の質問を行った。

また、教育研究面において、より良い改善を行うためには何が必要か等の質問を行い、教育研究の支援策が欲しいというような回答もあった。

○： 新年俸制については、どの範囲まで適用する予定なのか。全員を新年俸制へと切り替えてはどうか。

△： 適用範囲は、基本的には全員であるが、無理強いはいできない。ただ、全員に新年俸制に移行して欲しいと思っている。2019年度以降については、新規採用者は全員適用予定であり、在職者には、時間をかけ説明し、2020年度から適用していきたい。

- ： 定期的に学長記者懇談会を行っているが、メディア側から大学に対する期待や要望はあるのか。
  - △： メディア側から、どのような情報を欲しているのか、どういった情報提供の方法がいいのか等、アドバイスいただいている。
  - ： 社会的価値や九工大の価値等をどの指標によって評価されるのかを想定し、評価結果を今後の計画等の活かしていくような考え方もあるのではないかと。短期と長期との見方をすると、例えば外から見た評価のひとつとして大学ランキングがあり、短期的には順位が変わらなくても、長期的には、何位になる、という目標も持つのも良いのではないかと。
  - △： 世界大学ランキングの何位になることを目標とすることは難しいが、結果的には、世界大学ランキング等に反映されるので、常に留意している。
- 国際競争力のある研究をやっているのか、ということに対し、1論文あたりに引用数が世界平均に達したため、国際競争力のある研究が行えてきているのではないかとというような指標を世界大学ランキングは用いており、今後も指標に関しては注意を払って行きたい。
- ： 「2019 年新年に思う」を読んで、文化、結束、多様性、寛容の4つの柱を述べていることがすばらしい。
- 九工大は技術で秀でている学校であるため、そこに九州工業大学という文化が技術の上に築かれるという110周年の年になることを祈っている。文化を閉じないという意味で、多様性、寛容などを守り続ける結束を呼び掛けていることに感銘を受けた。
- △： 昨今の世界の情勢が、分断してきているのではないかと考え、大学は多様性があるため、融合、結束に貢献していけるのではないかと考えた。本学は、工学をベースにしており、工学は社会のインフラに大きな貢献をしており、その上に成り立つ文化についても関心を持っていきたい。

## 6. 会議成立

構成員18名のところ、16名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

## 7. 議事録の確認

平成30年度第2回経営協議会（平成30年11月14日）の議事要旨の確認について説明があり、了承された。

## 8. 報告事項

### (1) 2019年度国立大学法人運営費交付金の予算案等について (資料2)

理事（教育・財務担当）から、2019年度国立大学法人運営費交付金の予算案等について報告があった。

文部科学省から、本学への2019年度国立大学法人運営費交付金予定額の伝達が届いていないため、今回は国立大学関係予算（案）の概要説明の留め、伝達到着後に、

お知らせする旨の補足説明があった。

(2) 平成29事業年度に係る実績に関する評価結果について

(資料3)

理事(国際・評価担当)から、平成29事業年度に係る実績に関する評価結果について報告があった。

9. その他

(1) 研究紹介について

本学における特色ある研究に取り組む以下の教育職員から、自身の研究について説明があった。

- ①所 属：次世代パワーエレクトロニクス研究センター 大村 一郎 センター長  
紹介内容：「次世代パワーエレクトロニクス研究センター活動紹介：拠点化に向けて」
- ②所 属：生命体工学研究科 生体機能応用工学専攻 生体メカニクス講座  
川原 知洋 准教授  
紹介内容：「スマートインテグレーションで創発されるイノベーション」

説明後、外部委員からは、次の意見等をいただいた。

(○：学外委員，△：学内委員)

- ： 行っている研究は、値段を下げようとしている、普及させるために微細化させようとしているなど、様々な事が考えられるが、どのような方向性があるのか。
- △： 2つの方向性がある。一つは加工技術で値段を下げる方向性、もう一つはシリコンパワー半導体の高性能化の可能性である。

(2) 平成30年度経営協議会の開催日程について

(資料4)

総務課長から、平成30年度の経営協議会の開催日程について説明があった。